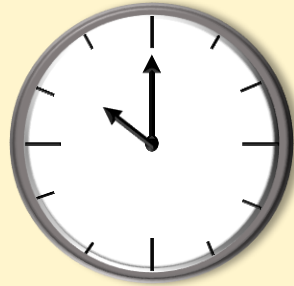


二、学校へ出前授業

令和3年10月には、7月の田んぼの生きもの調査に引き続き、鈴木先生が学校へ出向き、出前授業を行いました。

鈴木先生が大学生に教えている「花の受粉のしくみやDNAの構造」について、小学生でもわかるように説明しており、児童たちは興味津々に授業を受けていました。疑問に思ったことは積極的に質問し、休み時間には鈴木先生のもとへ聞きに行く様子も見られました。

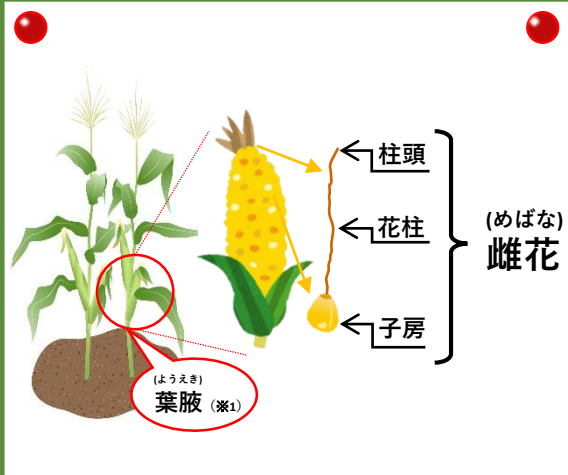
今回の出前授業は、地域の農業や植物の生態系について考えることのできる、充実した機会となりました。



出前授業の様子

トウモロコシは粒の数だけ毛がある！？

10月5日
(火) 日直
みさいら



イネ科のトウモロコシ属の中で唯一、栽培化された植物がトウモロコシです。それ以外の野生種、野生亜種はテオシントと総称されます。雌花は葉腋(※1)に通常1個ずつ出て、芯の周りに並んでいるたくさんの花から長い毛を出し、雌しべとなります。

つまりトウモロコシは、花の数(将来食べる粒)だけ毛があります。その花が受粉して、私たちが食べている粒となります。この粒は、太い芯の上に8~16列程度に規則正しく並んでいます。

受粉を行うときは、茎の先端にある雄花の花粉を長い毛の柱頭で受けます。雄花は雌花より1~2日先に熟してしまうため、他の株の花粉で受粉します。そのため、複数株を複数列に並べて栽培する畑がほとんどです。

トウモロコシのような雌花の長い花柱と柱頭は他に見られません。

※1 葉腋(ようえき)・・・葉と茎が接している部分。葉の付け根。

いろいろな働きを持つ 農業・農村



①たべものをつくる

私たちの生活に必要な、お米や野菜などの農産物を作ります。



②ゆたかな水をつくる

田んぼに張られた水は、時間をかけ地下へ浸透し、地下水になります。また、田んぼの水や土中の微生物の働きにより、水がきれいになりおいしい水が作られます。

③大地をまもる

自然災害から私たちの暮らしを守ります。大雨の時は田んぼや畑に一時的に水がたまり、洪水の発生を防いだり、土が崩れるのを防ぎます。

④生きものの住みかをつくる

田んぼや畑では様々な生き物が住んでいます。その生きものたちの、命のつながりを守ります。

⑤心をいやす

ふるさとの自然や景観を守ります。田んぼや畑、農家のうち、周辺の川や山が作り出すふるさとの風景は心をいやす働きがあります。

⑥気温の上昇をやわらげる

田んぼや畑で作られる作物は光や熱を吸収して、気温を下げる働きがあります。

⑦資源のリサイクル

牛や豚の排せつ物や生ごみから作ったたい肥(肥料)を、田んぼや畑の作物が養分を吸収するなど、資源のリサイクルをすることができます。



⑧伝統・文化をつたえる

作物の豊作を祈ったり感謝したりするお祭りや行事など、昔から伝えられてきた地域の伝統や文化を守ることができます。